巻頭言

未来の子どもたちへ県女性協がお手伝い

青森県ＪＡ女性組織協議会では、小学生を対象とした「農業ふれあい教室」を長年にわたり行ってまいりました。今年で20年目となり、様々な農作物の栽培や料理教室を体験することで農業の大変さや大切さ、作る喜び、食べる喜びを、たくさんの子どもたちが実感してくれたことと思います。本協議会では長年の活動実績により、今後は未就学児を対象とした食農教育活動に取組もうと「しゃかしゃかおむすび・みそ玉教室」を企画しました。

今年度は企画して初めての取組みとなったため、勝手がわからないこともありましたが、ＪＡ全農あおもりや青森県産米需要拡大推進本部にも協力いただき、令和８年２月５日に青森市の中央文化保育園にて実施いたしました。

教室ではＪＡ全農あおもりオリジナル絵本「おにぎりのやくそく」の読み聞かせやお米大使と一緒にダンスでふれあい、そしてお米についての学習も行い、子どもたちはしっかり取組んでくれました。

子どもたちの楽しそうな表情を見て、この取組みが「子どもたちの心と身体の健康につながり、大きくすこやかな成長に繋がっていくのではないか」と感じました。私たち自身も元気なパワーをもらい、とても素敵な食農教育活動となりました。令和８年度からは、県青協とも連携して活動に取組む予定です。

私の所属するＪＡ相馬村では、小学校５年生を対象に今年度初めて「お米ができるまで」の授業を行いました。播種、田植え、刈り取りを体験し、最後は本県産米３種類の食べ比べと、好みの具材を入れたおむすび作りといった内容です。

私は食べ比べとおむすび作りのお手伝いに参加し、子どもたちは食べ比べしながら味の違いを確かめていました。そして、大小さまざまなおにぎりを持ち帰り、各家庭で食べていただきました。

これらの食農教育活動を通じて、農業の大切さや国消国産への理解を深め、「農協って何？」「女性部では何をやっているの？」など、若い世代や非農家の方々にも関心を持っていただける活動を目指し、女性が輝ける魅力ある組織づくりに精進してまいります。それが未来の子どもたちにつながることを信じて――。

青森県ＪＡ女性組織協議会
副会長理事　田　澤　真由美

絆 3 KIZUNA　目　次　CONTENTS

巻頭言 …… 1
特集 …… 2
フラッシュ …… 4
インフォメーション …… 6
実践農業者支援 …… 10
経営の窓口 …… 12
組織農政通信 …… 14
あおもり通信 …… 16
ＪＡ津軽みらいＮＥＷＳ …… 17
輝き・部会のチカラ …… 18
新風 …… 19

表紙の写真：新・農のある風景 ～其の120～　白い息吐く冬のせり場（ＪＡ十和田おいらせ）

国際協同組合年（ＩＹＣ2025）を振り返る

2025国際協同組合年第１回青森県実行委員会開催（7／18）

2025国際協同組合年第１回青森県実行委員会（構成団体：県生協連、県漁連、県森連、ワーカーズコープ北東北事業本部、ＪＡ青森中央会）が県農協会館で開催された。５協同組合から17人が参加し、２つの議案全てが承認された。

開会にあたり中央会の乙部輝雄会長が「2025国際協同組合年青森県実行委員会の立ち上げに出席いただき感謝する。本日の設立を機に、協同組合間での連携を深め、新たな一歩を踏み出したい」とあいさつした。

2025年は国連が定めた国際協同組合年であり、青森県においても協同組合が地域社会に果たしている役割や必要性について県民に広く発信し、地域づくり・人づくりに貢献する活動を推進していくこととした。

協議を進める乙部会長

ミュージカルへ園児を招待　ＩＹＣ2025の取り組みとして（9／4）

ＪＡ青森中央会は、あおもりみなみこども園と青森甲田こども園の年長児26人を劇団わらび座のミュージカル、イーハトーブシアター「真昼の星めぐり」the musical へ招待した。

この取り組みは中央会におけるＩＹＣ2025の活動の一環であり、園児に「多様性、包摂、協同」の大切さについて理解醸成を図ることを目的としている。

あおもりみなみこども園の皆さん

舞台キャストと青森甲田こども園の皆さん

本ミュージカル会場には、車イス席や補助犬同伴席など、さまざまなアクセシビリティが準備されており、誰もが安心して楽しめるようになっている。

ミュージカルを見た園児は「ボールがピカピカ光って、色もたくさん変わって楽しかった。舞台の人が、歌がうまくてかわいかった。太鼓がでてきてびっくりした」と生き生きと話していた。

2025国際協同組合年にかかる県知事要請実施（9／22）

2025国際協同組合年青森県実行委員会は、協同組合が地域社会に果たしている役割や価値について県民に広く認知されるよう、学び・実践・発信を進める取り組みの醸成を目的とし、青森県庁で要請を行った。

同委員会の乙部輝雄委員長が宮下宗一郎青森県知事に要請書を手渡し、①協同組合が実施する、育成･発展および持続可能な開発目標（ＳＤＧｓ）達成に準ずる事業に対し、助成金等を活用した支援②協同組合の意義と役割について、広報誌、ＳＮＳ、体験学習やイベントなどを活用し、県民全体に対する広い周知について要請した。乙部委員長は「本県における協同組合の取り組みや今後の展望について、県としてのご理解とご支援をお願いしたい」と述べた。

要請者は次のとおり。かっこ内は所属組合。順不同。

▷乙部輝雄（ＪＡ青森中央会会長）、菅原正（県生協連会長）、二木春美（県漁連会長）、蛯沢正勝（県森連会長）、坂本典孝（ワーカーズコープ北東北事業本部本部長）

要請書を渡す乙部委員長（左から３番目）

令和７年度協同組合間提携５団体合同施設見学会（10／２）

青森県内の協同組合で構成している協同組合間提携青森県実行委員会は、同委員会の構成団体の合同施設見学会を実施した。同見学会は、提携する各団体がお互いに知る場を設け、願いや課題を相互理解することを目的として開催し、各団体の役職員18人が参加した。

４回目となる今回は青森県生活協同組合連合会施設の「あおもりコープフーズ」を見学し、同組合の担当者はコープあおもりと青森保健生協の共同事業「給食・配食事業」について、「この取り組みは、医療福祉生協と購買生協が力を合わせ、青森県民のくらしを守ることに幅広く貢献することを目指したものである」と説明した。

施設見学をする参加者

担当者は「事業を通じて青森県における福祉の向上に貢献していく。また、地元の生産者や加工業者と連携し、地産地消を推進していきたい」と話した。昼食には給食・配食事業で実際に提供されている弁当をいただいた。

給食・配食事業で実際に提供されている弁当

第40回青森県生協大会出展（10／７）

ＪＡ青森中央会は、青森市のリンクステーションホール青森で「第40回青森県生協大会」にブース出展をした。ＩＹＣ2025にあたり、協同組合の仲間として初めて同大会に参加した。

中央会では押し花のように乾燥させた「押し野菜･果実」を使ったハーバリウムを作成できるワークショップを実施。野菜や果物を使ったワークショップを体験してもらうことで、消費者に対し国消国産運動、食農教育をＰＲした。15分程度で見栄えの良い小物を作れると以前より好評。中央会の出展ブースには75人が参加し、野菜や花の色の組み合わせを楽しみながら作業をした。

ハーバリウムを作る参加者

2025国際協同組合年青森県記念集会開催（12／11）

2025国際協同組合年青森県実行委員会は、青森市のリンクステーションホール青森で「2025国際協同組合年青森県記念集会」を開催した。同委員会に所属する５団体の役職員ら約150人が参加。「協同の力による課題解決」や「ＳＤＧｓへの貢献」について理解を深めることを目的に基調講演とグループディスカッションを実施した。

同委員会の乙部輝雄委員長は「青森県でも７月に実行委員会を設置し、お互いに連携することを確認した。今後も更なる発展をしたく、今まで以上に関係機関、協同組合組織が連携を深めていきたい」とあいさつした。

基調講演では日本協同組合連携機構（ＪＣＡ）の伊藤治郎常務が「協同組合が築いていく持続可能な社会」と題し協同組合のアイデンティティや地域における協同組合の可能性、協同組合間提携について講話。他県でのＩＹＣ2025の取り組み事例や現代社会における協同組合の存在意義について講演した。

あいさつをする乙部委員長

基調講演をする伊藤常務

その後、グループディスカッションを実施。各団体の職員らが講演の感想や日頃の活動状況を報告し、時より談笑を交えながら交流を深めた。

グループディスカッションをする参加者

集会の最後には青森県記念集会アピールの採択を実施。ＩＹＣ2025を契機に協同組合の意義を次世代へとつなぎ、未来に希望をもてる社会の実現を目指して行動していくことを宣言した。

県内JAのニュースを紹介します

フラッシュ

ＪＡ青森

女性部役員とＪＡ常勤理事との意見交換会（２／３）

女性部役員とＪＡ常勤理事との意見交換会が、当ＪＡの営農経済本部で開催された。参加した女性部本部役員８名からは、女性部の活動に対する理解や協力、助成等のお願いがあった。また、店舗統廃合による不便さやＪＡに対する改善や要望も多くあげられた。

鹿内克之組合長をはじめ常勤理事は、意見要望に対し、検討、改善を進めていくと回答した。

ＪＡつがるにしきた

楽しくぺったん　育てたもち米で餅つき（１／30）

管内の鶴田町立鶴田小学校６年生が校内で餅つきを行った。昨年６月に田植えをしたもち米「あかりもち」を使い、きねとうすによる餅つきを体験した。昨年９月には脱穀体験も行い、１年を通して米作りについて学んだ。

この日は町やＪＡが一体となって行事を支援し、ＪＡ青年部や女性部もサポート。つき上がった餅はあずきやきなこ、のりなどで彩りよく仕上げた。児童たちは、米作りの大変さや収穫の喜びを実感し、出来たての餅を味わった。

ＪＡごしょつがる

野菜栽培の基礎を学ぶ　グループワークと実習（２／17、18）

野菜振興協議会は、野菜栽培に関する基礎的講習会を開いた。

講習会は二部構成で実施。第一部は肥料メーカーや農薬メーカーの担当者らが講師を務め、施肥や防除、資材選びなどの理解を深め、二部では、ヤンマーアグリジャパンの担当者がトラクターの基本操作や始動前点検など、安全な取り扱い方法を指導した。

就農４年目の小野幸輝さんは「ズッキーニの収穫期間を長くしたく、追肥について具体的に聞くことができた。早速今年の栽培に生かしたい」と意欲を見せた。

ＪＡつがる弘前

無人航空機による融雪資材散布（２／３）

今冬の大雪を受け、ＪＡでは昨年に引き続き無人航空機によるリンゴ園地への融雪促進剤散布を実施する。

本稼働に先駆け、農事組合法人藤崎営農組合の担当者が藤崎町にある約２ヘクタールの園地に、ドローンで融雪資材を散布した。ＪＡ営農係長の清野直人係長は「今後の気象情報、積雪量を注視するとともに、被害の未然防止と軽減のため、樹上の雪下ろしや枝の堀り上げに合わせ、融雪資材の散布を検討してほしい」と話した。

ＪＡ相馬村

技術向上剪定セミナー（２／17）

相馬村わい化栽培研究会で「剪定セミナー」を当ＪＡの大場勉組合長のリンゴ園地で行った。県りんご剪定士３名を講師に招き、参加者は30名、そのうち女性部員から５名が参加した。

講師の福士華奈子さんは「その園地に合った剪定を心掛けることが大切」と話し、実演を交えながら教えた。

参加者の山崎友江さんは「講師が女性で質問しやすかった。うちの園では女性従業員が剪定をすることも多いから、大変勉強になった」と話した。

ＪＡ津軽みらい

剪定作業についてわかりやすく指導
初心者りんご剪定講座（２／１）

みなみ地区りんご栽培指導協力会は、平賀支店と田舎館支店管内で「初心者りんご剪定講座」を実施した。同講座は、同協力会の協力員が講師を務め、マンツーマン形式で指導している。

協力員は枝の性質や成長させる枝、切り落とす枝などを説明しながら剪定作業を実演。また、実際に剪定作業を行う実技指導もあり、道具を使う時のコツなどを説明した。受講者は「剪定作業の基礎や道具の使い方をじっくり学ぶことができたので、来年も申し込みしたい」と話した。

ＪＡゆうき青森

ＪＡゆうき青森合併15周年記念旅行（１／28～30）

当ＪＡは、合併15周年を記念し、沖縄旅行を実施した。火災で消失した復興中の首里城や、一足早い桜を楽しめる今帰仁城跡など有名観光地を巡り、楽しんだ。

記念パーティーでは、沖縄の伝統衣装である「琉装」に身を包んだ地元小中学生らが琉球舞踊を披露した。

参加者は「初めて沖縄に来て、とても楽しかった。今後もこのような機会があったら参加したい」と満足気だった。

ＪＡ十和田おいらせ

郷土発酵食「ごど」作り（２／６）

十和田市切田地区で冬場の保存食として親しまれている郷土発酵食「ごど」作りが今年も始まっている。

発酵食が大好きな俳優の小雪さんが、未来に残したい郷土食のレシピを学ぶＮＨＫ番組「小雪と発酵おばあちゃん」での放映や書籍化、大学教授が研究するなど近年再注目されている。

同地区の山田浩代さんは「少しでも多くの人に伝えたい。『懐かしい』『おいしい』という声が励みになっている。これからも作り続けたい」と使命感を抱いている。

ＪＡおいらせ

あみものに挑戦（１／６、13、20）

ＪＡ女性部六戸支部は「あみもの教室」を開き、18人が参加した。

講師にプチハウス工房の関川幸子さんを招き、各自毛糸を持ち寄り、関川さんの指導を受けながら、チュニックや帽子作りに挑戦した。作業中は、部員同士和やかに会話を交わしながらも、それぞれ真剣な表情で作業を進めた。

ＪＡ八戸

令和７年度野菜生産販売検討会開催（２／３）

野菜総合部会は、八戸プラザホテルで「令和７年度野菜生産販売検討会」を開催した。県や市などの関係機関、市場関係者や生産者が参加した。

同部会の堰合繁部会長は「生産資材、運賃などが高騰しており、再生産が困難になりつつある。関係機関のご協力をお願いしたい」と挨拶した。

検討会では、当ＪＡの担当者が、ナガイモなどの本年度の販売実績を報告したほか、出荷規格を見直し簡素化することで、生産者の手取りアップにつなげていく旨を述べた。最後に同部会の崩弘幸副部会長がガンバロー三唱を行い、全員で目標達成を誓った。

令和８年豪雪災害対策本部設置

ＪＡグループ青森は「令和８年豪雪災害対策本部」を設置した。ＪＡ青森中央会の乙部輝雄会長が本部長を、天内正博副会長が副本部長を務める。

２月３日、青森市の県農協会館で「令和８年豪雪災害対策本部委員会」を開き、今後の対策と日程について協議した。乙部本部長は同委員会で「被害拡大の防止や被災ＪＡ・組合員に対し必要かつ万全な対策に取り組む」と述べた。

ＪＡグループ青森は２年連続で対策本部を立ち上げる。昨年は果樹の枝折れや農業用ハウスの倒壊など農業被害が甚大となり、青森県農業へ大きな影響を与える事態となった。今年も記録的な豪雪となり、農作物などの被害発生が懸念されている。対策本部は今後、被害状況の把握や被災ＪＡ・組合員への必要な対策を実施する。

▲豪雪災害対策本部を立ち上げる乙部本部長（右）と天内副本部長（左）

しゃかしゃかおむすび＆みそ玉教室開催

県ＪＡ女性組織協議会は２月５日、青森市の中央文化保育園で「しゃかしゃかおむすび＆みそ玉教室」を開催。同園の年中、年長クラス約30人が参加した。

本イベントは、未就学児を対象に食農教育活動および米の消費拡大を目的とした同協議会による新たな取り組みである。ＪＡ全農あおもり、青森県産米需要拡大推進本部が本イベントに協賛。あおもり米の応援隊「お米大使」が応援に駆け付けた。

しゃかしゃかおむすびには同協議会役員が生産した「青天の霹靂」「はれわたり」「まっしぐら」の３種類のお米を使用。小さな子どもでも簡単に丸いおむすびが作れるよう、紙コップにご飯を入れラップでふたをし、紙コップを上下に「しゃかしゃか」と振ることでできあがる。

みそ玉は、みそに顆粒だしや乾燥野菜などの具材を混ぜ込み、ラップで包み込むように丸める。お湯をかければお味噌汁が手軽に作ることができて、見た目もかわいい料理だ。

園児たちは先生や女性部員、青年部員のサポートを受けながら友達と料理を楽しんだ。

また、イベントでは、同協議会役員によるＪＡ全農あおもりオリジナル絵本「おにぎりのやくそく」の朗読会や、園児がお米大使と一緒にダンスをした。

活動終了後には協賛２団体と中央会より、園児へ絵本やお米大使グッズなどをプレゼントした。

参加した園児は「お米の違いがわかった。簡単に丸いおむすびが作れておもしろい。家でもやってみる」と笑顔で話した。

▲お米大使、県ＪＡ女性組織協議会役員と記念撮影

▲おむすびとみそ汁を食べる園児たち

行事（３／10～４／10）

３月

10日	定例理事会（県農協会館）
11日	監事監査研修会（アップルパレス青森）
11日	ＪＡグループ青森組織再編検討会議　幹事会【第３回】（アートホテル青森）
11日	県参協定例会（県農協会館）
16～17日	新採用職員研修会①（オンデマンド配信）
17日	県下ＪＡ女性組織部長･支部長･事務局合同会議・研修会（県農協会館）
24～25日	新採用職員研修会②（ＷＥＢ）
24日	令和８年度いのちはぐくむ青森の農林水産業贈呈式（青森県庁）
27日	臨時総会、県農協農政対策常任委員会、臨時理事会、監事会（県農協会館）

４月

３日	県女性協第１回定例理事会・監査会（県農協会館）
10日	定例理事会（県農協会館）

第２回ローン担当者会議の実施

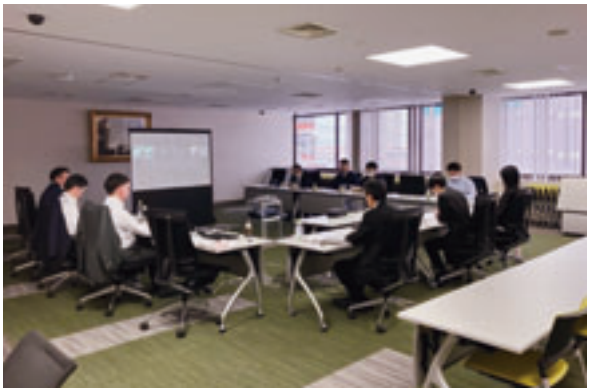
農林中央金庫青森支店は、2026年１月23日に第２回ローン担当者会議を実施した。当日は青森市の大雪警報の影響により、急遽ＷＥＢでの開催となったが、県内ＪＡや保証機関関係者が参加し、今後のローン推進に向けて活発な情報共有が行われた。

2026年２月から融資稟議・電子契約サブシステムが稼働し、ＷＥＢ申込や自動保証審査など、利用者･ＪＡ双方の負担軽減と効率化が期待される。今回の会議では、金庫・保証機関が一体となった導入準備状況や、現場での運用イメージが共有され、今後のスムーズな定着に向けて意識合わせがなされた。

主な会議内容として、2024年以降の金利上昇局面を受け、競争力のある金利設定と持続可能な収益確保の両立が求められていることから、金利設定における考え方について説明が行われた。また、給与振込やＪＡカードとのセット推進が貯金残高増加や顧客基盤強化につながることもデータとともに説明。

そのほか、2025年度は、外部環境が厳しい中で、ハウスメーカー担当者とのリレーション構築など着実に推進したことを振り返るとともに、2026年度の県域としての取組方針にかかる説明が行われた。

来年度以降も引き続き、ローン担当者会議を実施する方針。ＪＡバンク青森は、時代の変化や環境の変化に柔軟に対応しながら、地域に根ざした持続可能な金融サービスの提供を目指して取り組みを続けていく。



▲会議の様子

行事（３／10～４／10）

農林中央金庫

３月

12日　　ＪＡバンク青森運営協議会専門委員会　（県農協会館）

農協電算センター

３月

10日　定時取締役会（県農協会館）
27日　臨時株主総会（県農協会館）
　　臨時取締役会（県農協会館）
　　監査役協議会（県農協会館）

（＊）はウェブ会議

令和７年度農産物検査員育成研修修了式の開催

青森県ＪＡ農産物検査協議会は２月６日、青森市の県農協会館で令和７年度農産物検査員育成研修修了式を開いた。

令和７年５月から令和８年１月まで関係法令や検査実技などの基礎を学び、各ＪＡで行う米穀・小麦・大豆・そばの現場実習を行った。研修を受講した県内７ＪＡの15人全員が修了し、代表してＪＡ八戸の切無沢旭さんへ修了証書が授与された。

同協議会の三潟譲会長（ＪＡ全農あおもり米穀畜産部長）は「検査現場では自主的に鑑定訓練を重ね、厳格な鑑定技術を身につけることが重要。生産者が作った農産物の品質を適正に評価・格付けし、一人前の検査員として活躍してほしい」とあいさつをした。

修了生は検査員登録などの手続きを経て、令和８年産から農産物検査にあたる予定となっている。

▲修了証書を受け取る切無沢さん

あおもり米もりもりキャンペーン第２弾

ＪＡ全農あおもりは、令和８年２月20日（金）から３月20日（金）までの１か月間、「あおもり米もりもりキャンペーン第２弾」を開催している。

同キャンペーンは、県産米の消費拡大を目的に実施するもの。期間中、応募シール付きの弁当商品を購入、または対象飲食店であおもり米を使用したメニューを注文すると、応募シールが進呈される。シールをめくり記載されたシリアルナンバーを特設 WEB サイトに入力することで、その場で抽選結果が分かる仕組み。

賞品は、県産りんごを使用したジュース「希望の雫」が50名、オリジナル QUO カード（500円分）が450名、青森県産米パックご飯セットが500名の、合計1,000名に当たる。

県産米の魅力を味わいながら参加できる今回の企画。詳細は特設 WEB サイトで確認できる。

行事（３／10～４／10）

３月

10日　運営委員会（県農協会館）

４月

７日　りんご共防連総代会（県農協会館７階　大会議室）

10日　運営委員会（県農協会館）

青森県警察本部長から感謝状授与

ＪＡ共済連青森は１月20日、青森県警察本部長室において「令和７年中の交通事故死者数の最少記録更新に大きく寄与した」として本会の活動をたたえ青森県警察本部長から「感謝状」を贈呈された。

発表された令和７年の県内の交通事故発生状況によると、死者数は27人（前年比16人減）、負傷者数2,732人（２人減）、発生件数も2,247件（31件減）と過去最少を更新した。死亡事故のうち65歳以上の高齢者が18人と前年より８名減少し改善しているが約７割を占めており、高齢者が関係する事故をいかに防ぐかが課題となっている。

▲安田県警本部長より感謝状を授与される葛西本部長

感謝状贈呈式では、ＪＡ共済連青森をはじめ交通関係団体の10団体が青森県警察本部　安田貴司本部長より感謝状を受け取った。

▲感謝状を贈呈された交通関係団体

共済事業担当常勤理事会議の開催

ＪＡ共済連青森は２月４日、東日本引受センター（神奈川県）において「共済事業担当常勤理事会議」を開催した。

開会にあたり葛西本部長は会議への出席と日頃から共済事業をはじめとしたＪＡ事業全般に尽力いただいていることに対して感謝の言葉を述べ、「本日の会議では今年度の目標達成に向けた取組みについて改めて確認いただき、全ＪＡが目標達成に向けて頑張っていただきたい。全共連の事業計画書（案）や共済事業体制総点検運動の展開内容などについて確認いただきたい。」と挨拶した。

次に全国本部の井上参事より挨拶の言葉をいただき、全国本部東北・北海道地区担当殿田部長より全国の普及推進状況等の情勢報告が行われた。

会議では令和７年度ＪＡ普及推進目標達成に向けた総仕上げの取組み、令和８年度事業計画書（案）、令和８年度業務計画書、令和８年度共済事業体制総点検運動の展開等、令和８年４月実施予定の仕組改訂・共済掛金率変更等、令和８年度地域・農業活性化の取組み、令和８年度共栄火災の取組みについて説明され、積極的な質疑応答が行われた。

▲開会のあいさつをする葛西本部長

行事（３／10～４／10）

３月

10日	運営委員会（県農協会館）
～31日	仕組改訂・事務改善事項研修会（キャリアシップ受講）

４月

１～３日	推進担当者コンプライアンス・共済基礎知識研修会（キャリアシップ受講）
８～10日	Ｊ－ＷＡＹＳ基本編・活動編研修会（県農協会館）
10日	運営委員会（県農協会館）

実践　農業者支援

教育体系を確立して営農指導員を育成しよう

１．はじめに

近年の農業は、経営の大規模化や「みどりの食料システム戦略」による環境負荷低減の取組みをはじめ、スマート農業の活用や労働力軽減に向けた栽培技術の普及等、農業を取り巻く状況が大きく変化しています。このような中、営農指導員は、栽培技術指導の高い専門性と青色申告支援等の幅広い知識、部会事務局等のコミュニケーション力が必要とされ、その人材育成には相当な期間を要します。

しかしながら、本県の営農指導員は年々減少し、さらに他業務との兼任化がすすんでいるのが現状です。調査では、支店所属の営農指導員の業務の８割以上が他部門業務だったという例もあります。このことから、改めてＪＡの組織基盤・経営基盤の根幹となる「中核機能」としての営農指導員の役割を明確にし、営農指導員の人材育成に向けて教育体系を確立する必要があります。

２．新たな営農指導員資格認証

従来の営農指導員向けの資格認証「営農指導員」に加え、新たな資格認証を設定し実務経験に応じて資格取得を奨励します。

（１）地域営農マネージャー（ＪＡ全中）

「農業者の所得増大」および「農業生産の拡大」に向けて、地域農業振興計画等の企画検討、生産部会運営等を通じた産地振興を担う営農指導員の中核的職員

（２）農業経営アドバイザー（日本政策金融公庫）

農業の特性を理解し、税務・労務・マーケティングなどの専門分野を踏まえ、総合的かつ的確なアドバイスを実践できる人材

（３）ＪＡ農業経営コンサルタント（ＪＡ全中）

経営相談・会計税務・労務管理等、幅広い分野で高度な知識を有し個別農業者の経営を総合的に支援する専門職員

区　　分	初級営農指導員	中級営農指導員	上級営農指導員
実務経験年数	10年未満	10年程度	10年以上
取得奨励資格	①営農指導員	①営農指導員 ②地域営農マネージャー ③農業経営アドバイザー	①営農指導員 ②地域営農マネージャー または ③農業経営アドバイザー ④ＪＡ農業経営コンサルタント

３．資格取得に向けた対応

営農指導員の新たな資格認証に対応するため、本会（全中）において次の研修会を開催します。

・地域営農マネージャー準備研修会
・農業経営アドバイザー準備研修会
・ＪＡ農業経営コンサルタント研修（全中）
・営農部門管理職・監督者研修会

４．ＪＡにおける営農指導員教育体系の設定

ＪＡの営農部門では上記の資格取得と併せて、本会（全中）や全農、関係機関が開催する各種研修会への参加を体系化（見える化）するとともに、ＪＡ全体および営農部門等で取得奨励する資格も含めた営農指導員教育体系を設定します。

ＪＡ○○○　営農指導員教育体系（例）

○○○○年○月○日

区　分	初級営農指導員	中級営農指導員	上級営農指導員
実務経験		実務経験10年程度	実務経験10年以上
推奨資格	・営農指導員 （または、資格取得を目指す職員） ・資格認証試験【初級】	・営農指導員 ・資格認証試験【中級】 ・地域営農マネージャー ・農業経営アドバイザー	・営農指導員 ・資格認証試験【上級】 ・ＪＡ農業経営コンサルタント
ＪＡ青森中央会主催研修等	・営農指導員資格認証試験 ・営農指導員資格認証準備研修会 ・営農指導員資格認証指定研修会	・地域営農マネージャー資格認証試験 ・地域営農マネージャー準備研修会 ・農業経営アドバイザー試験（JFC） ・農業経営アドバイザー準備研修会	・ＪＡ農業経営コンサルタント研修(全中)
	・営農指導初任者研修会 ・農業簿記基礎研修会 ・農業税務基礎研修会 ・営農指導事業meeting	・農業簿記検定受験対策研修会(2級) ・農業税務実務研修会 ・農業経営管理支援研修会 ・営農指導事業meeting	・営農部門管理職・監督者研修会 ※ＪＡ全中主催研修会等の奨励にて上級営農指導員向け研修を補完
ＪＡ全中主催研修・資格等	・青色申告支援実践研修会 ・農業法人経営管理支援実践研修会	・相続税研修会Ⅰ ・相続税研修会Ⅱ ・相続相談実務研修会	
	・地域農業振興計画等実践セミナー	・ＪＡ産地振興・担い手支援実践全国大会 ・ＪＡ営農・経済フォーラム	
	・JGAP指導員基礎講習会 ・JGAP団体認証講習会 ・GLOBAL G.A.P.内部農場監査員講習会 ・GLOBAL G.A.P. QMS監査員講習会	・GH農場評価員養成講習基礎講習会 ・GH農場評価員養成講習実践講習会 ・HACCP基礎講習会 ・HACCP実践講習会	
	・ＪＡ全国専門畜産経営診断士養成研修・資格認証試験		
取得推奨資格・検定	・JGAP指導員 ・JGAP上級指導員	・GH農場評価員	
	・農業簿記検定（日本ビジネス技能検定協会）　２～３級		
その他機関主催資格・研修	・日本農業技術検定（農業会議）　１～３級		
	・農業経理士（日本ビジネス技能検定協会）　農業簿記１級・経営管理・税務		
	・毒劇物取扱責任者（国家資格） ・農業管理指導士（県認定） ・危険物取扱者（国家資格）　乙４類 ・フォークリフト（登録教習機関）　特別教育(1t未満)・技能講習(1t以上) ・産業用無人ヘリコプター技能認定（農林水産航空協会）		
	・普及指導員（国家資格）		
	・土壌医検定（日本土壌協会）　１～３級		
	・職業紹介責任者（厚労省実施機関） ・衛生管理者（安全衛生技術試験協会） ・外国人雇用管理主任者（外国人雇用支援センター）		
	・相続検定２級（日本金融人材育成協会） ・マネジメント検定（日本検定協会）　２～３級	・企業経営アドバイザー（日本金融人材育成協会） ・マーケティング検定（日本マーケティング協会）　１～３級	

５．まとめ

本会では営農指導員の人材育成と営農指導業務の棚卸を柱とした、青森県版の営農指導事業機能・体制強化方針を策定いたしました。営農指導事業の目的である「農業所得の増大・農業生産の拡大」を達成に向けて、限られた人員で効果的・効率的に業務を遂行するために教育体系の設定をすすめましょう。

（中央会　農業対策部）

経営の窓口

社会労働関連法の改正について

１．はじめに

令和８年度においても、職場環境や社会制度の整備を目的に、各種の改正社会労働関連法が施行予定であり、企業においては対応が求められる。

今月の経営の窓口では、各ＪＡの人事労務担当者に知っておいていただきたい令和８年４月から施行予定の内容の中から、５つ紹介する。

２．法改正の内容

（１）令和８年４月１日より施行

①　健康保険の被扶養者認定の収入要件見直し

被扶養者の認定における年間収入について、これまで１年間の収入見込みにより判定されていたが、被扶養者の収入が給与収入のみであり、労働契約に基づく年間収入（残業代や諸手当、賞与も含む）が以下の基準額未満である場合には、原則として被扶養者に該当するものとして取扱われる。

○被扶養者の収入要件

①　被扶養者の年間収入が130万円未満であること
※60歳以上の者または一定の障害者は180万円未満
※19歳以上23歳未満の者は150万円未満
②　被扶養者の年間収入の２分の１であること
※別居の場合は収入が扶養者からの援助に係る収入額未満

②　子ども・子育て支援金の徴収開始

子育て支援の拡充を目的として、子どもや子育て世帯を社会全体で支える「子ども・子育て支援金制度」が令和８年度から実施される。

この支援金は、加入する医療保険制度ごとに保険料が決められ、令和８年４月分から医療保険料と合わせて徴収が開始される。

なお、給与明細書に「子ども・子育て支援金」の額を示すことは法令上の義務とはなっていないが、本制度が社会全体でこどもや子育て世帯を応援する趣旨であることを踏まえて、記載を推奨している。

○令和８年度の支援金額の推計（平均月額）

健保組合	被保険者一人当たり 約550円

③　男女間賃金差異・女性管理職比率の情報公表義務

女性の職業生活における活躍に関する取組みの推進等を図るため、情報公表の必須項目の拡大を含めた女性活躍推進法等が改正された。

これに伴い、従業員数101人以上の一般事業主で、現在届出ている女性活躍推進法に基づく「一般事業主行動計画策定・変更届」を再度作成し、所轄労働局に届出を行う必要がある。

また、これまで従業員数301人以上の企業に公表が義務付けられていた男女間賃金差異について、101人以上の企業に公表義務を拡大するとともに、新たに女性管理職比率についても101人以上の企業に公表を義務付けた。（従業員数100人以下の企業は努力義務の対象）

なお、情報公表の方法としては、厚生労働省が運営する「女性の活躍推進企業データベース」や、自ＪＡのホームページへの掲載が挙げられる。

○情報公表の必須項目の内容

① **従業員数301人以上のＪＡ：以下の４項目以上の情報公表が義務付け**
- 男女間賃金差異（令和４年７月８日から義務付け）
- 女性管理職比率（令和８年４月１日から新たに義務付け）
- 女性労働者に対する職業生活に関する機会の提供に関する実績
- 職業生活と家庭生活との両立に資する雇用環境の整備に関する実績

② **従業員数が101～300人のＪＡ：以下の３項目以上の情報公表が義務付け**
- 男女間賃金差異（令和８年４月１日から新たに義務付け）
- 女性管理職比率（令和８年４月１日から新たに義務付け）
- 女性労働者に対する職業生活に関する機会の提供に関する実績、または職業生活と家庭生活との両立に資する雇用環境の整備に関する実績

（２）令和８年10月１日より施行予定

カスタマーハラスメント、求職者等へのセクシュアルハラスメント等のハラスメントのない職場づくりの推進等を図るため、労働施策総合推進法等が改正された。

カスタマーハラスメントや、求職者等に対するセクシュアルハラスメントを防止するために、雇用管理上必要な措置を講じることが事業主の義務となる。

① カスタマーハラスメント対策の義務化

カスタマーハラスメントとは、以下の３つの要素をすべて満たすもの。
- 顧客、取引先、施設利用者その他の利害関係者が行うこと
- 社会通念上許容される範囲を超えた言動であること
- 労働者の就業環境が害されること

② 求職者等に対するセクハラ対策の義務化

求職者等（就職活動中の学生やインターンシップ生等）に対しても、セクシュアルハラスメントを防止するための必要な措置を講じることが事業主の義務となる。
- 求職者等に対して
- 求職者の求職活動等において行われる
- 当該事業主が雇用する労働者によって行われるセクシュアルハラスメント

上記①・②への対応として、事業主の方針等の明確化及びその周知や啓発、相談体制の整備・周知、発生後の迅速かつ適切な対応・抑制のための措置が求められる。また、事業主が講ずべき具体的な措置の内容等は、今後、指針において示される予定。

なお、カスタマーハラスメント対応にかかる基本方針等については、本会より既に示しているひな形が法に準拠していることから、自ＪＡの基本方針等を再度ご確認願いたい。

3. さいごに

法改正に伴い、各ＪＡにおいても制度への対応や方針等の見直し・体制整備、そして職員への周知が求められる。

今後本会から各種文書を発出し情報提供していくため、各ＪＡにおいては適宜改正法に準拠して対応していただくとともに、引き続き最新の情報を注視していただきたい。

【参考】
- 日本年金機構「労働契約内容による年間収入が基準額未満である場合の被扶養者の認定における年間収入の取り扱いについて」
  https://www.nenkin.go.jp/oshirase/taisetu/2025/202512/1225.html
- こども家庭庁「子ども・子育て支援金制度について」
  https://www.cfa.go.jp/policies/kodomokosodateshienkinseido
- 厚生労働省「労働施策総合推進法等の一部改正について」
  https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/koyou_roudou/koyoukintou/zaitaku/index_00003.html

（中央会　経営対策部）

組織農政通信

家の光・日本農業新聞の取組み

ＪＡグループ青森は第30回ＪＡ青森県大会において、「今こそ結集！協同の力～青森の農業と地域のくらしを守るために～」を実現するため、組合員等の維持・拡大による組織基盤の強化をすすめており、本会では、ＪＡの組織基盤強化とＪＡ教育文化活動の充実を図ることを目的に、「家の光」および「日本農業新聞」の普及活用に向け取組んでおります。

１．『家の光』『ちゃぐりん』『地上』『家の光図書』の取組み

（１）令和７年度の普及実績

「家の光三誌」ならびに「家の光図書」の普及推進にあたっては、各ＪＡの協力のもと令和７年度は大きな成果を上げることができました。この場を借りてお礼申しあげます。これらの普及結果に対して、令和７年12月に開催した「青森県家の光大会」において表彰を行いました。

① 『家の光』高率普及優良ＪＡ表彰は、長期にわたりＪＡが一体となって普及活動に取組み、県内で高普及率が維持されているＪＡに対しての表彰で、ＪＡ相馬村、ＪＡおいらせ、ＪＡ八戸の３ＪＡが表彰されました。

② 『家の光』12月号普及優良ＪＡ表彰は、家の光協会が普及活用特別運動として全国的に取組む12月号について、積極的に取り組み普及推進目標部数を達成したＪＡに対しての表彰で、ＪＡ津軽みらい、ＪＡ十和田おいらせ、ＪＡゆうき青森、ＪＡおいらせの４ＪＡが表彰されました。

③ 『ちゃぐりん』８月号普及優良ＪＡ表彰は、夏休み前の小学校５年生を対象に、普及活用運動に積極的に取組み、普及目標部数を達成したＪＡに対しての表彰で、ＪＡ青森、ＪＡつがる弘前、ＪＡ相馬村、ＪＡ津軽みらい、ＪＡ十和田おいらせ、ＪＡゆうき青森、ＪＡおいらせの７ＪＡが表彰されました。

④ ＪＡ女性部特別表彰は、青森県ＪＡ女性組織協議会が普及推進に取組んだ『家の光』12月号について目標を大きく上回る実績を上げたＪＡ女性部に対しての表彰で、ＪＡ津軽みらい女性部が表彰されました。

⑤ ＪＡ女性部表彰は、青森県ＪＡ女性組織協議会が普及推進に取組んだ『家の光』12月号について目標を達成したＪＡ女性部に対しての表彰で、前項の特別表彰を受賞したＪＡ津軽みらい以外の全ＪＡ女性部が表彰されました。

⑥ ＪＡ青年部表彰は、青森県農協青年部が設定した『地上』11月号特別推進運動に積極的に取組み、目標を達成したＪＡ青年部に対しての表彰で、ＪＡ十和田おいらせ青年部が表彰されました。

（２）令和８年度の普及目標

令和８年度の「家の光三誌」ならびに「家の光図書」の普及目標については、令和８年２月に開催した「農政・組織基盤体制強化担当部課長および担当者会議」において説明し、表－１のとおり各ＪＡの目標部数が設定されました。令和８年度も目標達成に向け取組んでまいりますのでよろしくお願いします。

２．日本農業新聞の取組み

日本農業新聞の普及については、令和７年度から９年度までの３カ年の取組みとして現在取組んでいるところです。購読部数が昨年度を上回っているのはＪＡ相馬村のみとなっておりますが、各ＪＡとも目標達成については厳しい状況となっております。

また、日本農業新聞では紙での普及のほか、スマホ、タブレット等で閲覧可能な電子版についても令和４年度から普及を進めています。電子版については、紙版よりも格安で購読可能で、紙版では住所地の地方版（青森県の場合は東北版）しか見られませんが、電子版では全国の地方版の閲覧が可能となっています。紙版と合わせて電子版の普及ならびに紙版からの切替についても推進をお願いします。

令和８年度の日本農業新聞の目標部数については、家の光と同じく令和８年２月に開催した「農政・組織基盤体制強化担当部課長および担当者会議」において説明し、表－１のとおり各ＪＡの目標部数が設定されました。

家の光・日本農業新聞については、令和８年４月17日に今年もキックオフ大会を実施し、令和８年度の目標について改めて説明し、達成に向けて取組んでいきたいと思いますのでよろしくお願いします。

表－１　令和８年度　家の光・日本農業新聞普及目標部数

（単位：部）

項目 / ＪＡ名	家の光			ちゃぐりん		地上		家の光図書	日本農業新聞
	平月号	12月号	女性部	平号月	８月号	平月号	青年部		
青森	111	148	18	22	611	7	---	121	212
つがるにしきた	157	278	18	29	100	14	10	168	384
ごしょつがる	129	168	18	58	100	18	10	61	180
つがる弘前	224	268	18	44	1,315	15	10	130	276
相馬村	60	88	18	24	117	8	10	9	63
津軽みらい	249	718	18	165	374	28	10	161	339
十和田おいらせ	256	478	18	72	248	33	10	106	503
ゆうき青森	90	198	18	54	287	24	10	44	240
おいらせ	134	218	18	119	501	20	10	33	221
八戸	663	698	18	86	1,140	13	10	168	406

※　『家の光』の女性部は12月号、『地上』の青年部は11月号の取組みとなります

あおもり通信

連絡先
農林水産省東北農政局
青森県拠点地方参事官室
TEL：017-775-2151

－ 農林水産省からＪＡ関係者へ情報発信 －

農業経営基盤強化準備金制度の改正内容のお知らせ

対象農用地の範囲の変更（令和８年度から適用）

令和８年４月１日以降、新たに準備金を活用して農用地を取得する場合、以下の要件を満たす必要があります。

積立て時

地域計画の区域内で準備金活用者が将来取得予定である農用地が対象となります。

※　上記以外の場合、積立てはできなくなります。

農用地の取得時

地域計画に準備金活用者が利用するものとして定められている農用地（地番等で特定した農用地）が対象となります。

※　地域計画で確認できない場合は対象外となります。

申請時に必要な新たな確認事項及び添付資料（検討中）

【積立て時】

□　別記様式第５号において、地域計画の区域内における準備金活用者の農用地取得予定を確認

市町村名（地域名又は地区名）の記載欄を追加

【農用地の取得時】

地番等を通じて、準備金活用者の取得する農用地が目標地図に記載されていることについて確認できる添付資料

□　取得する農用地が掲載されている地域計画の目標地図（必須）

□　取得する農用地を特定する資料

・　農地法第３条に基づく許可指令書等所有権を移転する農用地の地番が分かる資料

・　eMAFF農地ナビ等で取得する農用地の地番が分かる資料

目標地図とeMAFF地図を突合することで確認

農業経営基盤強化準備金制度についてはこちら　☞

農閑期を活用して開く勉強会

ＪＡ津軽みらいは農閑期を活用し、剪定会や農業講座といった勉強会を各地区で開いており、２月２日には平川市で「冬期農業講座」を開いた。この講座は農業に関する情報や専門知識の習得を目的としており、りんご部門と水稲部門を設け、生産者自ら選択して参加した。

りんご部門では、午前に平川市広船地区にある園地で剪定会を開き、剪定士や県りんご協会の技師ら８人が講師を務め、主力品種「ふじ」の普通栽培とわい化栽培の木を実際に剪定しながら作業のポイントや枝の性質、注意点について説明した。午後からは同ＪＡ本店に移動し、令和８年りんご防除暦や新採用農薬などの説明会が行われた。

水稲部門では、現在の米穀情勢や新規水稲除草剤「アカツキ」の使い方が説明説された。

農閑期を活用した勉強会は今後も行われ、生産者は今年の農作物の栽培に備える。

りんご部門の剪定会

水稲部門の説明会

リンゴの食育活動

ＪＡ津軽みらい青果部では、津軽みらい産リンゴの消費拡大に向けたＰＲ活動として、全国各地の青果会社を通じて、自治体・小学校・保育園などに毎年リンゴを寄贈している。

12月上旬には、同ＪＡの役職員が九州地方の小学校などを訪問し、寄贈式を行った。リンゴを受け取った子どもたちはとても喜び、後日リンゴを食べた感想や生産者に向けた応援の言葉が書かれたお礼の手紙とともに、子どもたちがリンゴを食べている写真がＪＡに届けられた。

同ＪＡは今後も食育活動を通して、消費拡大に向けたＰＲを展開していく。

九州地方の小学校を訪問した奈良寧組合長

輝き

青森中央会
農業対策部　組織農政課
横山（よこやま）　達哉（たつや）　さん

●プロフィール
2025年４月から勤務　青森市出身　35歳

働くきっかけは？
転職を考えていた時にＪＡ青森中央会の求人票が目に留まりました。地域貢献には興味があったことと、大学で農業を含めた地域産業を学んでいたことを思い出し、応募しました。

業務内容を教えて下さい。
主に広報関係を担当しています。日本農業新聞の県デスク業務や、各種イベントの記録、記事作成を行っています。

働いた感想は？
各ＪＡ・連合会の広報担当者からいただいた記事データを見て、幅広い業務や知識量に驚いています。

仕事をする上で、日頃心がけていることは？
「少ない手数で効率よく作業を進めるにはどうすればよいか？」を考えています。手数が増えるとミスにつながりやすいと思っています。

特技・趣味は？
特技は落語です。大学で落語研究会に所属して、そのまま続けています。
趣味はスポーツ観戦です。プロレスと野球が特に好きです（推しは新日本プロレスと北海道日本ハムファイターズ）。ちなみにスポーツを自身でやるのは大の苦手です。

あなたが自慢できることは？
旅先などで、近くの神社やお寺にお参りしています。時間があれば御朱印もいただいています。

将来の夢は？
２児の親として、家庭と仕事をしっかり両立できる人になりたいです。そして日本全国いろんなところを家族で旅行に行きたいです。エスコンフィールドHOKKAIDO、ポケパークカントー、東京ディズニーリゾート、各地の水族館、映画名探偵コナンの聖地巡礼などなど。

部会のチカラ

ＪＡ八戸ピーマン専門部 主要作物の産地維持、拡大を図る

現地で講習会を行い、技術向上に努める

ＪＡ八戸ではピーマンが主要作物の一つになっている。生産を担う「ＪＡ八戸ピーマン専門部」では部会員一丸となって産地の維持、拡大を図っている。

部会員数は現在、387人である。ＪＡと協力し、広報誌などを活用しながら、新規作付希望者を募集している。この活動が実り、希望者が年々増加傾向にある。令和８年度には28人が新規参入を予定している。

また、栽培技術向上のため、部会では定植前の４月から収穫最盛期となる８月まで、管内各地区で講習会を開いている。講習以外でも先輩の部会員が新規作付者に丁寧に定植の仕方や整枝方法などをアドバイスしている。

さらに、ＪＡ営農指導員も指導力強化のためレベルアップ研修会を行っており、管内圃場の巡回を強化し、生産者が気兼ねなく質問や相談ができる体制をとっている。管内圃場での生産者同士による視察研修なども積極的に開催し、部会員の交流の場も作り出している。

結果、販売額も増加しており、令和７年度は９億3,000万円の販売実績となった。部会では、令和８年度の目標出荷数量として2,640㌧、販売金額を10億320万円に設定し、産地の更なる拡大を図る。

新風

ＪＡ青森

知識と技術を学び 高品質なリンゴ生産を守る

青森市浪岡地区りんご剪定大会

青森市りんご生産改善推進協議会の主催で毎年冬に開催される「りんご剪定大会」。寒空の下、生産者や関係者ら100人が参加。そのうち若手の農家は約70人集まった。

剪定実技を真剣に見つめる参加者たち

ＪＡ管内の浪岡地区にある就農４年目と６年目の方の２園地で行われた。昨年と同じ園地であり、前回と比較することで樹の成長具合などを見ながら分かりやすく伝えることがねらいである。

同協議会の会長を務めるＪＡの福士幸樹専務は「質の良いリンゴを生産し続けるため、栽培技術の向上に取り組んでほしい」と挨拶した。

講師は浪岡地区の剪定士６人が務め、コンパクトな樹形のわい化方式と、樹を大きく育てる丸葉方式の剪定について指導した。新規就農者にも親身に指導し、樹や枝、日照の方角など全体を見て剪定する重要性を伝え「毎年同じ所から見て切るように」とアドバイスを送った。

昨年は大雪の影響を受け、枝折れ被害が多数の園地で見られ、リンゴの収量にも大きく影響を及ぼした。福士専務は「近年記録的な大雪が続くが適切に対策し、負けず頑張ってほしい」と生産者を激励した。

適切な剪定と大雪対策で、浪岡りんごのブランドを高めていく。

後編記集

大雪により雪かきで睡眠時間が削られ、何度もスタックした長い冬もいよいよ終盤ですね。２年連続の大雪でリンゴ園地など、大きな被害にならないことを祈るばかりです。

２月11日に最終日の「弘前城雪燈籠まつり」に行ってきました。弘前城の公園内には雪がたくさん残ってましたが、大雪後の急激な暖気により足元はぬかるみ、燈籠がフィギュアスケートの「イナバウアー」を彷彿とさせるほどかしがって（かたむいて）いました。また、津軽錦絵大回廊では数多くの作品が展示されており、色鮮やかでした。

ここで一句、「春近し　お城の前の　お辞儀かな」

Have a nice March（克）

ホームページアドレス

■ＪＡ青森中央会　https://www.ja-aomori.or.jp/chuoukai/
イベントの様子、歳時記、産直・ＪＡ情報などをご覧いただけます。

■ＪＡバンク青森　https://aomori.jabank.org
商品・サービスのご案内のほか、マネーシミュレーションや全国のＪＡバンクへのリンク等をご覧いただけます。

■ＪＡ全農あおもり　https://www.zennoh.or.jp/am/
生産量日本一のりんご・にんにく・ごぼうをはじめとした農畜産物情報や活動状況、中古農機情報を紹介しております。

■ＪＡ共済連青森　https://www.jakyosai-aomori.jp
ＪＡ共済のご案内のほか、地域貢献活動の取組みを紹介しております。

日本農業新聞電子版が

アプリでさらに便利に!

日本農業新聞ニュースアプリ

その日の記事をすぐにチェック

最新の記事は**トップに大きく掲載**されます。読み込み速度も速く、読みたい記事にすぐにアクセスできます。

速報などを**プッシュ通知でお知らせ**します。

＼スワイプで移動／

カテゴリメニューが**スワイプで簡単に選択**できます。

長押し+スライドで読みたい順に並び替えもできます。

カテゴリ記事に簡単アクセス

※画面はイメージです

動画で操作方法など説明

アプリへのログイン方法や特長など、詳しい説明をご覧いただけます。

アプリをダウンロードする

日本農業新聞公式ウェブサイトからダウンロードにお進みいただけます。

App Store　Google Play

お問い合わせ

日本農業新聞 電子版事務局
dkanri@agrinews.co.jp

※ アプリのダウンロードには「Apple ID」または「Googleアカウント」が 必要となります。 ※ App StoreはApple Inc.のサービスマークです。 ※ AndroidはGoogle Inc.の登録商標です。

家の光

IE no HIKARI

「食と農」「暮らし」「協同」「家族」を柱に
「人生100年時代」の元気づくりを応援していきます!

読者に寄り添い
より身近で活用しやすく

お申し込みはお近くのJAへ

誌　名	定価(税込) ※毎号統一価格
家の光 IE no HIKARI	900円

JAグループ　家の光協会　〒162−8448　東京都新宿区市谷船河原町11　TEL 03−3266−9039　https://www.ienohikari.net/